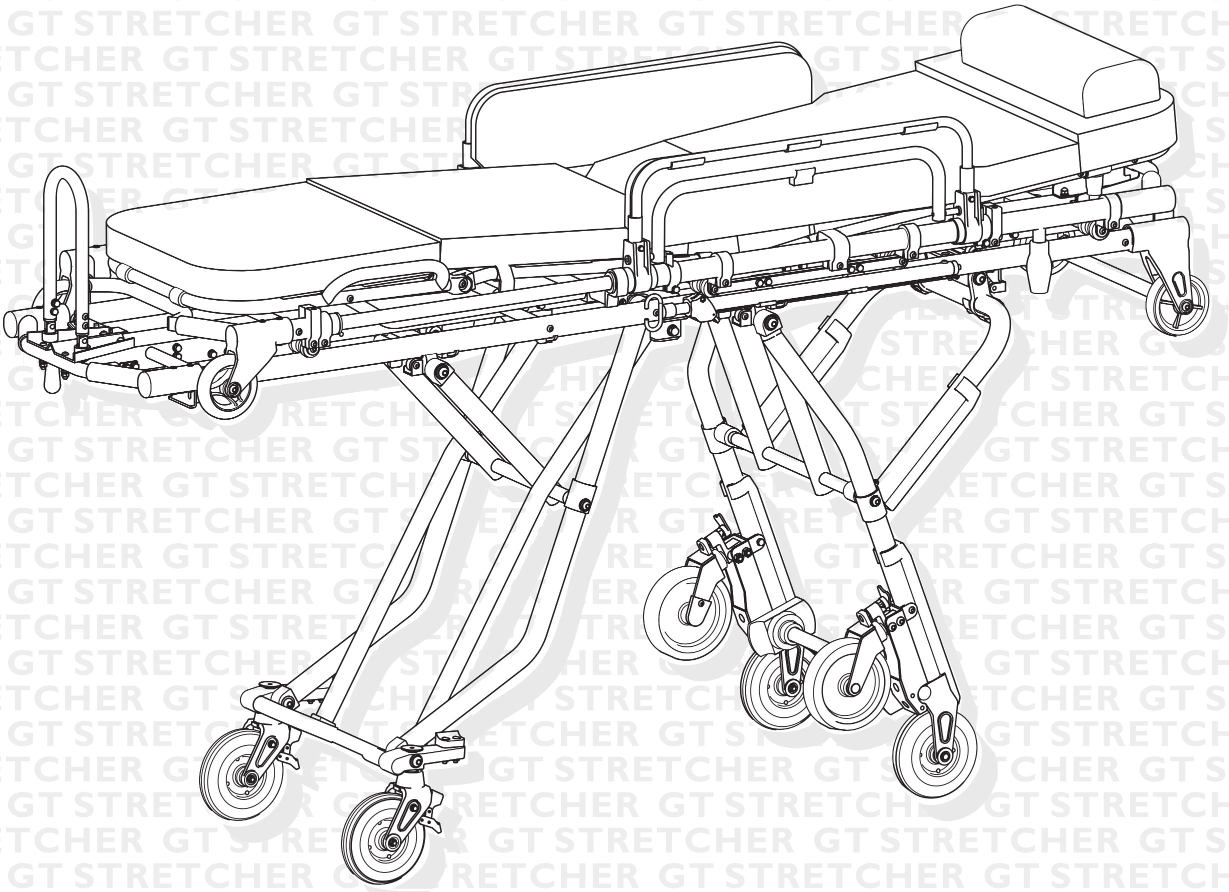
救急用ストレッチャー

GT STRETCHER

取扱説明書

保存用
保証書付



愛の輪
愛のいす
MATSUNAGA

2012.03

使用上のご注意

このたびは、(株)松永製作所のGTストレッチャーをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に、必ずお読みください。
また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

- お買い上げの製品は改良などによりこの「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または直接弊社までお問い合わせください。

お願い

- この取扱説明書には保証書が付いておりますので、大切に保管し、必要な時には再読してください。
- ご使用になる方全員が使用方法を十分に理解するように、適切な講習等を行ってください。
- 日常の点検は確実に行ってください。
- 使用方法等ご不明な点がありましたら、販売店・もしくは弊社までお問い合わせください。
- 商品改良のため、予告なしに諸元・性能を変更することがありますのでご了承ください。

取扱いに関する注意事項

ストレッチャーを安全に操作するためには以下の条件を満たす必要があります。

・ストレッチャーを両手でしっかりと掴む事ができること。
・ストレッチャーに人を乗せて、持ち上げたり、搬送する十分な体力があること。
・バランス感覚があること。
・操作中は、常に安全を確認し、危険を回避する反射神経があること。

慣れるまでは下記の点に注意して十分に練習してください。

・人を乗せない状態で操作を行う。
・操作側（足部側）と頭部側を別々に操作する。
・高さ調節を少しずつ行う。

目 次

安全にお使いになるためのご注意 …… 2
各部名称 …… 4
メインフレーム部（GT-09）…… 4
メインフレーム部（GT-05・06・07）…… 5
上部ストレッチャー部（GT-05・06・09）…… 6
頭部（GT-05・06・09）…… 6
フット部(座位型)(GT-05･06･09）…… 6
上部ストレッチャー部（GT-07）…… 7
頭部（GT-07）…… 7
メインフレーム部操作方法 …… 8
高さ調整 …… 8
搬送・ブレーキ …… 9
上部ストレッチャーの搭載、取り外し …… 10
車への搬入・車からの搬出 …… 11
搬送ハンドルの使用方法 …… 14
補助キャスタの使用方法（GT-09）…… 14
上部ストレッチャー部操作方法 …… 15
サイドレールの使用方法 …… 15
ガードル棒使用方法 …… 16
背もたれの調整 …… 17
フットレストの調整 …… 18
上部ストレッチャー部単体での使用（GT-05・06・09）…… 19
もしこんなトラブルが発生したときは …… 23
脚が伸びない場合 …… 23
メンテナンス …… 24
注油箇所 …… 24
保証 …… 25
GTストレッチャー専用WEBページのご案内 …… 25

安全にお使いになるためのご注意

⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明

この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。

この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

⚠ 警 告

(禁止) してはいけない

■故障、異常のあるときは、使用しないでください。
転倒･転落事故等の原因になります。
■改造しないでください。
改造によってストレッチャーの部品の破損･脱落などで安全性が低下し、転倒･転落事故等の原因となります。
■ストレッチャーの上で立ち上がらないでください。
転倒･転落事故等の原因になります。
■傷病者を乗せた状態では、絶対にストレッチャーから離れないでください。
ストレッチャーが勝手に動きだし、転倒･転落事故等の原因になります。
■次のような場所では、絶対にストレッチャーから離れないでください。
･坂道　･凹凸や濡れた路面　･風の強い場所
ストレッチャーが勝手に動き出す可能性があります。

(強制) 必ずしていただく

■使用前後の点検整備を確実に行い、ネジの脱落･緩み、フレーム等の亀裂などの確認をしてください。
■側溝の格子蓋、踏切のレール溝などキャスタが落ち込まないように注意してください。
ストレッチャーが急に止まり、転倒･転落事故等の原因となります。
■高さ調整･移動･車への搬入、車からの搬出などの操作をする場合には、必ず2人以上で行なってください。
また、傷病者が極端に重い場合や路面が不安定な場合などは、介助者を増やして行なってください。
■メインフレームの高さ調整をした時は、確実にロックしたことを確認してグリップから手を離してください。
メインフレームが脱落する可能性があり、転倒･転落事故等の原因となります。
■上部ストレッチャーをメインフレームに搭載した際は、ロックを確認しがたつきが無いか、傾いていないか確認してください。
転倒･転落事故等の原因になります。
■メインフレームの操作時にレバープレートを握る（ロックを解除する）と、傷病者とストレッチャーの荷重が掛かりますので、落とさないでください。
特に傷病者が乗っている場合の操作･調整は、無理のない安全な方法で行なってください。
転倒･転落事故等の原因になります。
■ストレッチャーの搬出時、ロールインキャスタが防振台（車の床面）に乗っている状態でフロントシャーシが完全に伸びたかどうか必ず確認してください。
フロントシャーシが伸びきらないうちにロールインキャスタが防振台（車の床面）から離れると、ストレッチャー頭部側が落ち、転倒･転落事故等の原因となります

⚠ 注 意

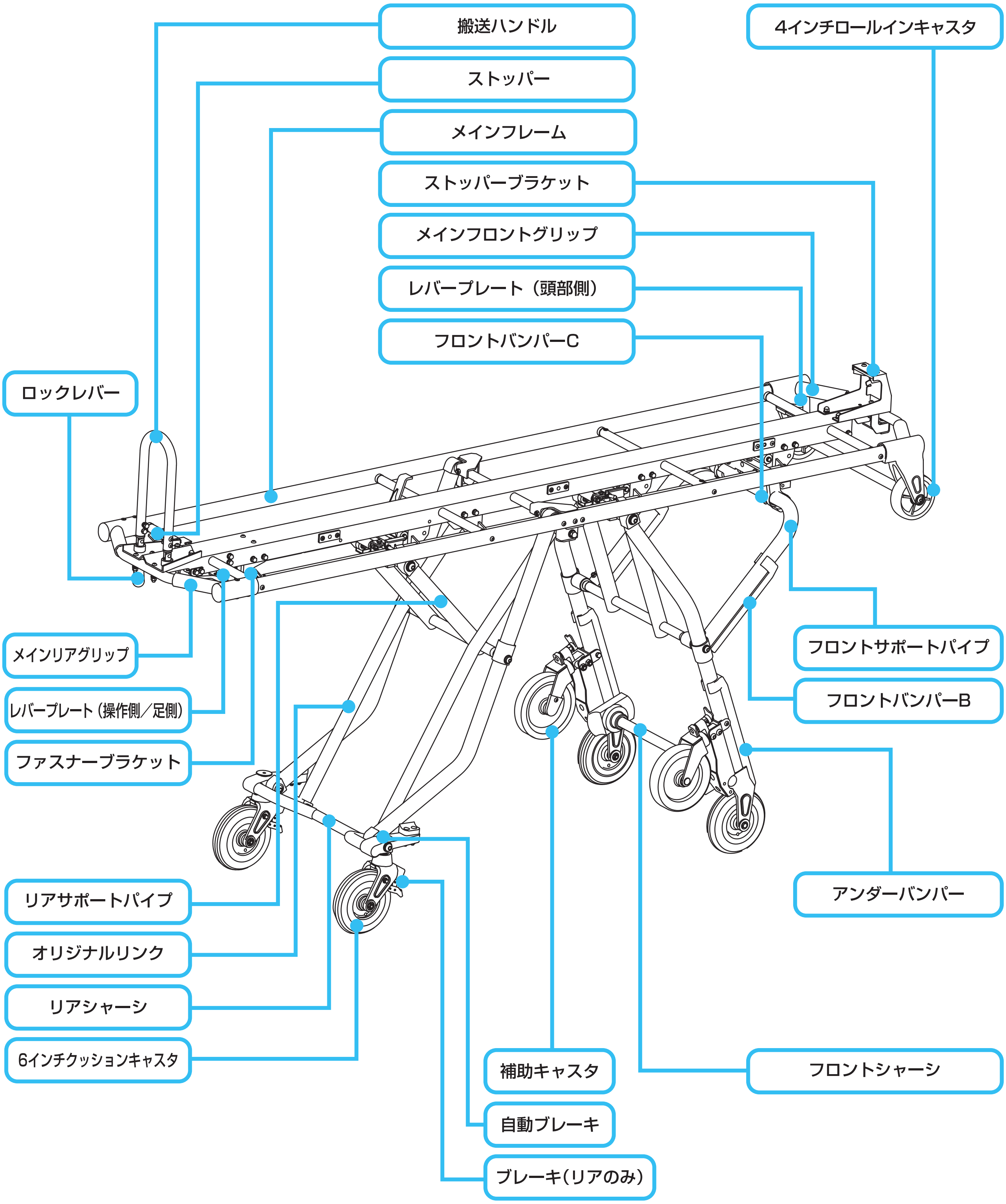
(禁止) してはいけない

■荷物の運搬等、ストレッチャー以外の目的で使用しないでください。
破損の原因となります。
■補助キャスター装備車両の場合、上部ストレッチャーが座位型の状態で搬入しないでください。
上部ストレッチャーと補助キャスターが干渉し搬入できません。
■搬送ハンドル装備車両の場合、搬送ハンドルが傾いた状態で搬入しないでください。
救急車のドアの内張り、カーテン等の破損の原因となります。
■サイドレールを持ってストレッチャーを持ち上げないでください。
破損･転倒･転落事故等の原因となります。
■ガートル架以外の目的で使用しないでください。
破損の原因となります。

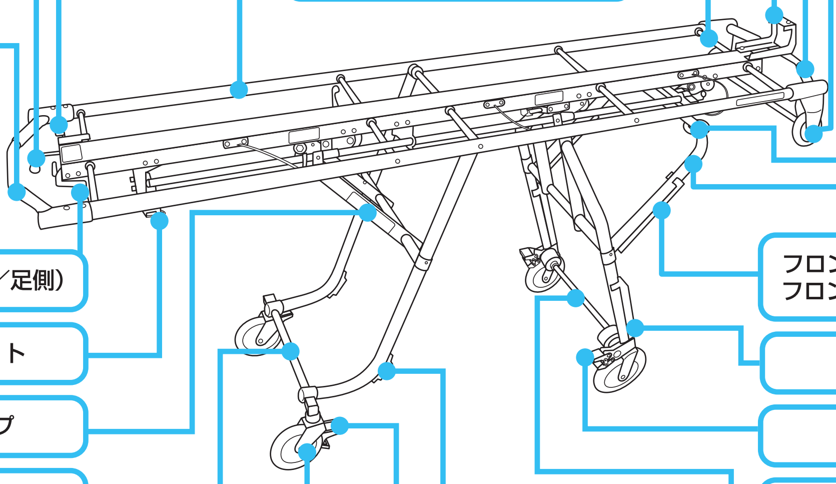
（禁止） ⃠ しては いけない	■ガートル棒の高さ調整の際、伸縮パイプを勢いよく引っ張らないでください。 伸縮パイプが抜け破損の原因となります。 ■上部ストレッチャーをメインフレームに搭載した場合、上部ストレッチャーの各部を持って持ち上げたり、移動しないでください。 上部ストレッチャーが外れ、転倒･転落事故等の原因となります。必ず、メインフレームを持って操作してください。 ■搬入時は、防振台（車の床面）と平行にストレッチャーを押し込んでください。 転倒･転落事故等の原因となります。 ■火気の近くに置かないでください。 シートや部品が燃え火災の原因となります。 ■スピードをつけて段差を乗りこえないでください。 転倒･転落事故等の原因になります。原則として、ストレッチャーを持ち上げて段差を乗りこえてください。 ■傷病者を乗せた状態では、ブレーキをロックしてもストレッチャーから離れないでください。 ストレッチャーが勝手に動きだし、転倒･転落事故等の原因となります。 ■メンテナンスの際、強酸性、強アルカリ性の洗剤は本体を変色させる恐れがありますので、使用しないでください。 破損等の原因となります。
（強制） ❗ 必ずして いただく	■傷病者を乗せたときには、必ずサイドレールを立てロックされていることを確認ください。 斜面を昇降する場合は特に注意してください。 転落などの事故等の原因になります。 ■ガートル棒取付け時（使用時）には、ぐらつきがないか確認してください。 ガートル棒が倒れ、ケガの原因になります。 ■ガートル棒収納時には、しっかりとホルダにはまっているか確認してください。 ガートル棒を紛失したり、ガートル棒が外れケガや本体を破損する可能性があります。 ■ガートル棒のフック部が顔や目など当たらないように注意してください。 ケガの原因になります。 ■ガートル棒の高さ調製を行った際には、ロックがされているか確認してください。 ガートル棒が急に縮み、ケガの原因になります。 ■傷病者を乗せたまま、背もたれの角度調整を行う時は、背もたれをしっかりと持ちゆっくりと操作してください。 また、ロックを確認してから手を離してください。 背もたれが急に倒れ、傷病者に衝撃を与えます。また転落事故等の原因となります。 ■傷病者を乗せたまま、頭部の調整を行うときには、頭部パネルを支えて操作してください。 頭部パネルが急に倒れ、傷病者に衝撃を与えます。また転落事故等の原因となります。 ■フットレストを調整する時に、フレーム内やスライド部で手や指を挟まないように注意してください。 フットレストが急に下がり、ケガの原因になります。 ■傷病者を乗せたままフットレストの調整を行う時には、急にフットレストが下がらないようにしっかりと支えて操作してください。また、ロックを確認してから手を離してください。 フットレストが急に下がり、傷病者に衝撃を与えます。また転落事故等の原因となります。 ■フットレストの調整の際には、必ずロックレバーが確実にロックされたか確認してください。 ケガの原因になります。 ■ショック体位用ハンドル装備車両でフット調整を行う際、ショック体位用ハンドル（赤テープ）以外で操作を行うと操作出来ない場合があります。 ■傷病者を収容後、必ずシートベルトをロックしてください。 転倒･転落事故等の原因となります。 ■坂道や凹凸、濡れた路面などではキャスタ移動をせず、持ち上げて移動するようにしてください。 ■持ち上げての移動の際、路面や周囲の状況、傷病者等が苦痛でなく転落しないように注意して移動してください。 ■車への搬入時は、必ず最高位で行ってください。 ■ストレッチャーを持ち上げるときにはストレッチャーの端枠（グリップ部）または側枠を逆手で持ち、ストレッチャー全体が水平になるように持ち上げてください。 転倒･転落事故等の原因となります。 ■家族または関係者等に協力を求める場合は、持ち上げ要領および事故防止上の留意事項を具体的に説明してください。 ■高規格車用タイプのストレッチャーの場合は、傷病者の位置が高くなることから、特に搬送中の転倒防止に配慮してください。 ■ストレッチャーの高さが最高･中間に位置する時は、必ず一人は支持するようにしてください。 ■各部操作･調整を行う際には、手や指を挟まないように注意してください。 ケガの原因になります。

各部名称

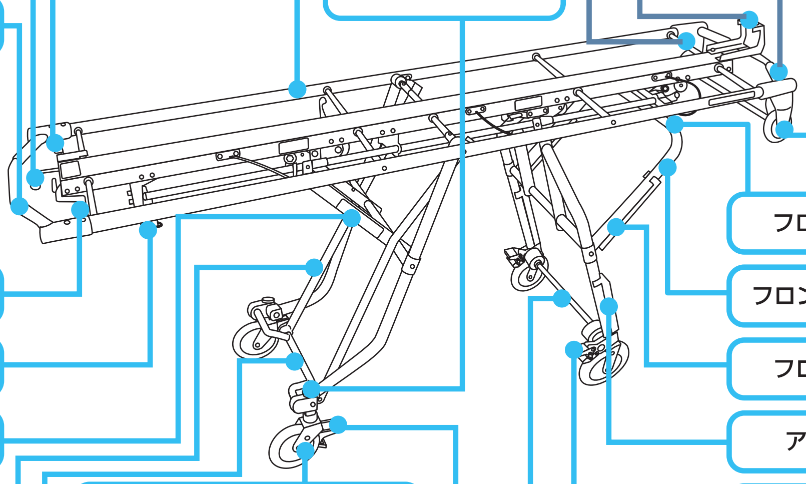
メインフレーム部（GT-09）



メインフレーム部（GT-05／GT-07）

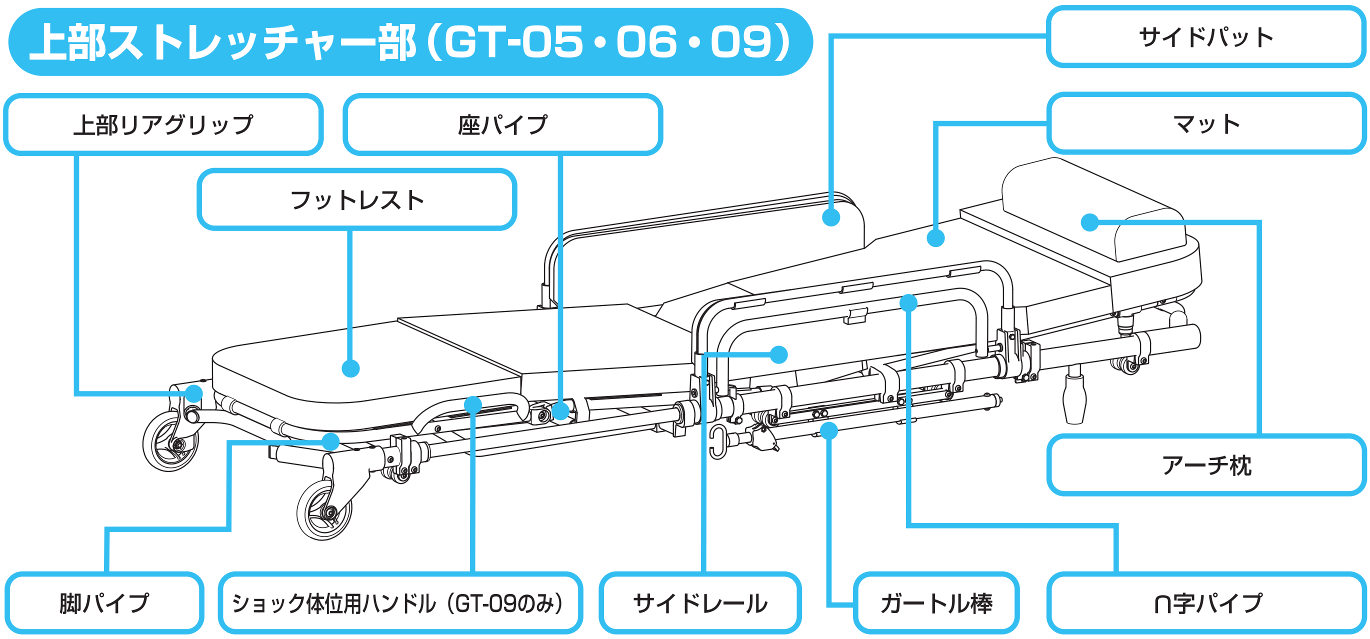


メインフレーム部（GT-06）

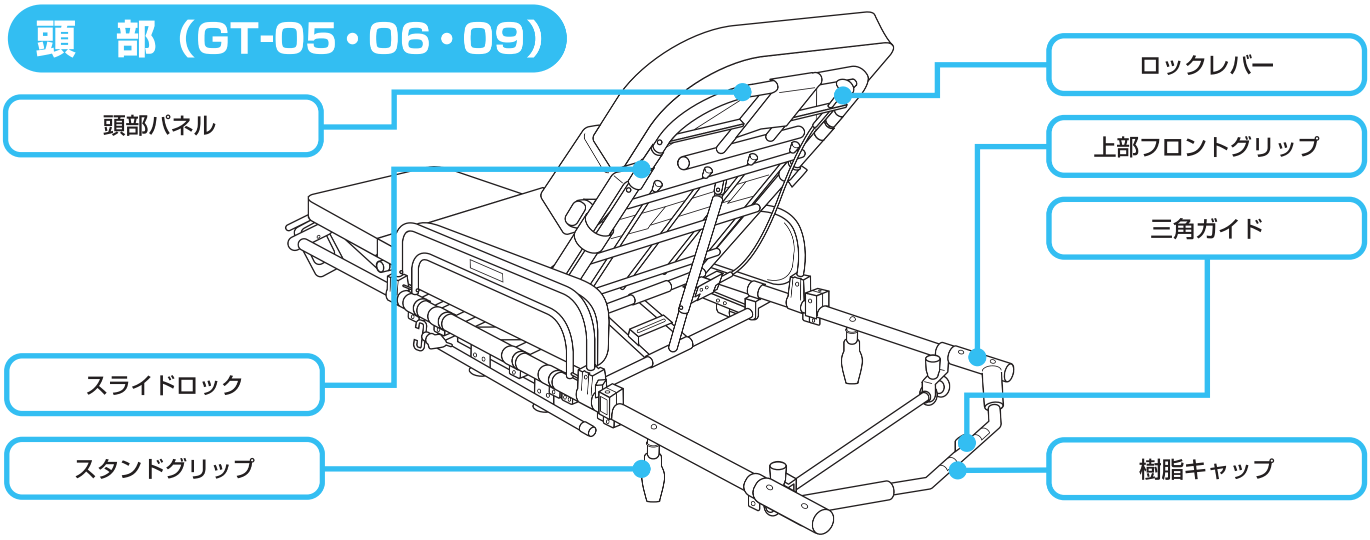


各部名称

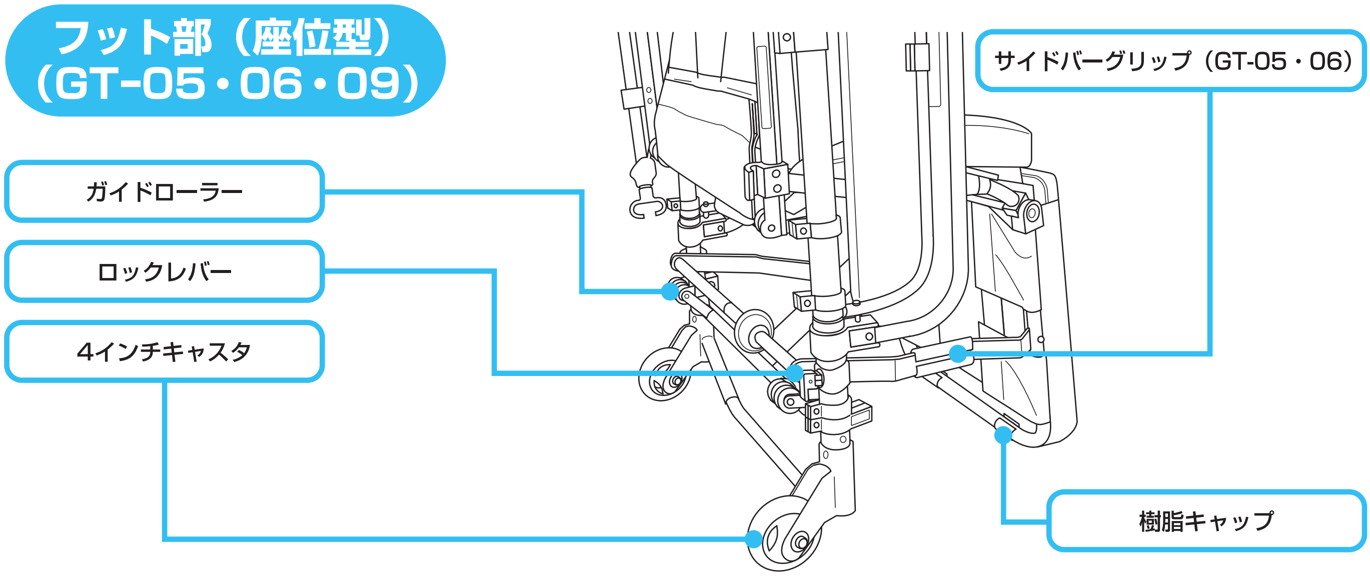
上部ストレッチャー部（GT-05・06・09）



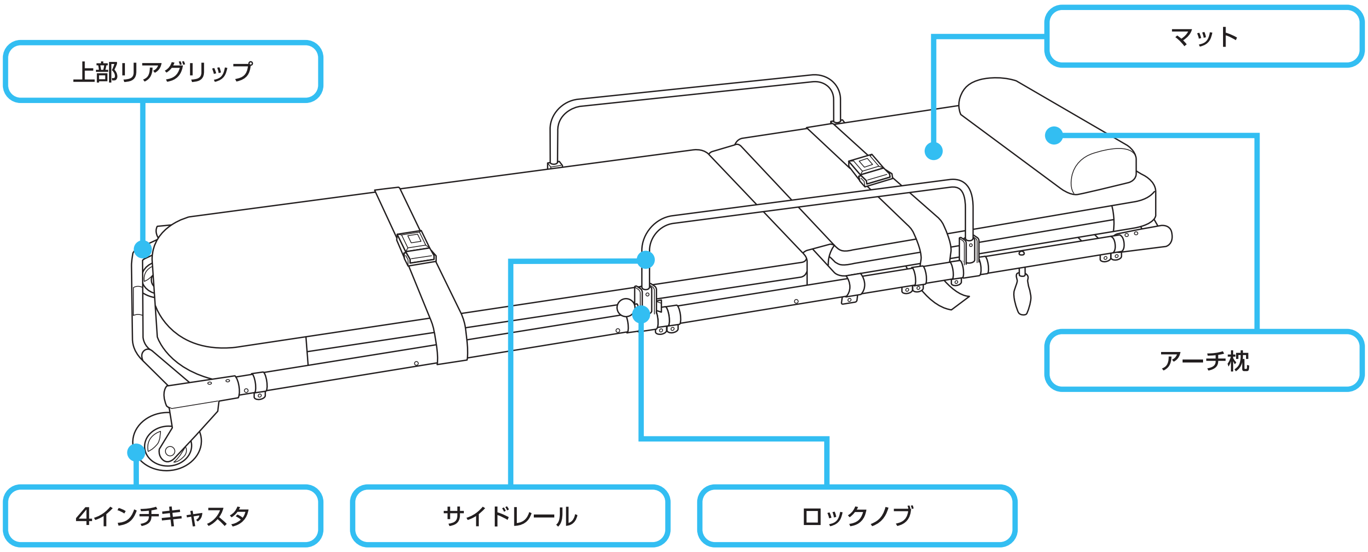
頭　部（GT-05・06・09）



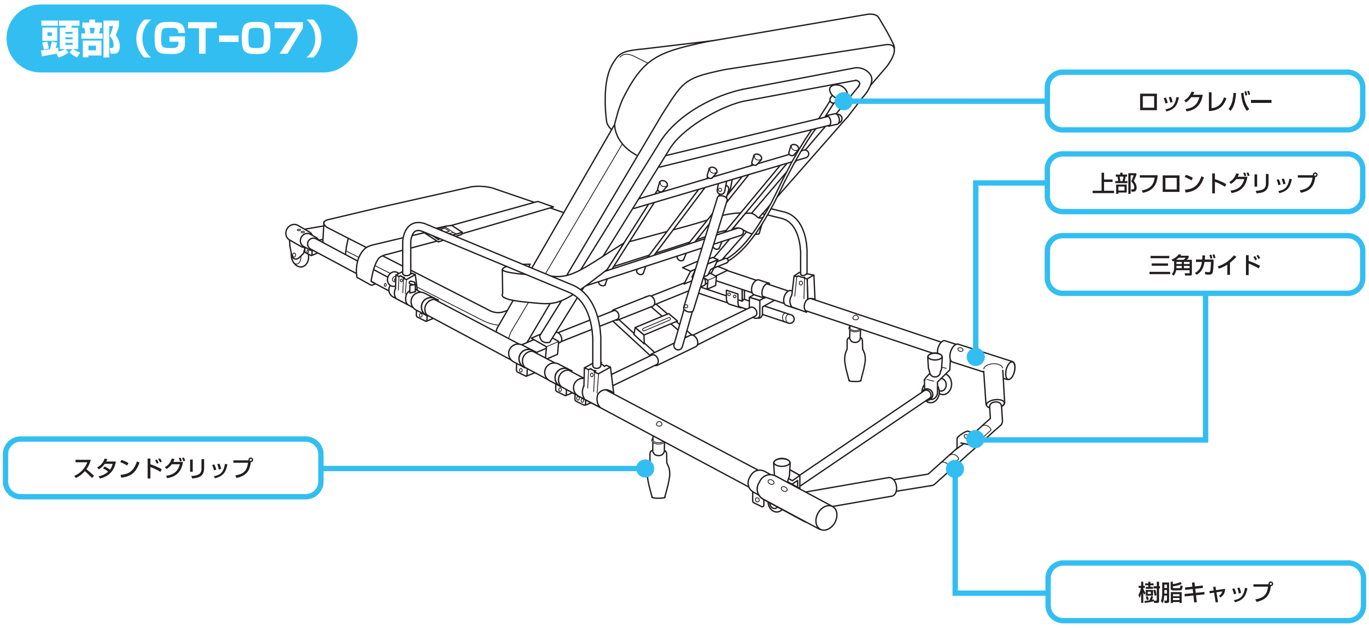
フット部（座位型）（GT-05・06・09）



上部ストレッチャー部（GT-07）

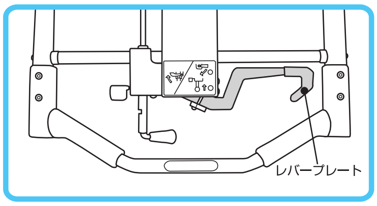


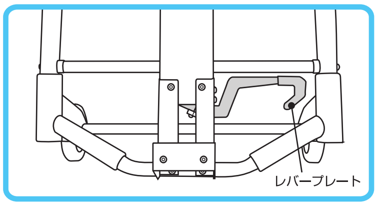
頭部（GT-07）



メインフレーム部操作方法

高さ調整





●メインフレームの高さを診察台などの高さや、傷病者を乗せる場合に合わせ、高さ調整を行うことができます。

〈GT-05/GT-06/GT-07の場合〉

●頭部4段階、足部4段階に調整することができます。

〈GR-09の場合〉

●頭部3段階、足部4段階に調整することができます。

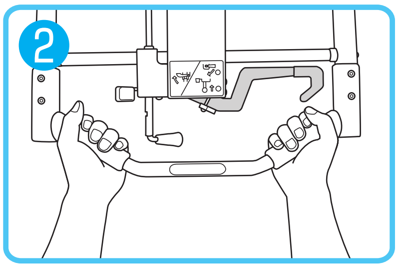
※車への搬入は最高位で行います。
高さ調整は、操作側（足部側）と頭部側の各レバープレートで行います。
高さ調整の時にメインフレームを両手で確実に支えておかないと、ストレッチャーが自重で下に落ちてしまいますので、十分注意してください。

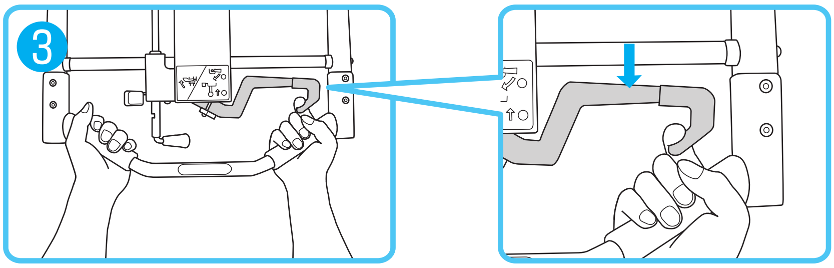
●この操作は2人以上で行ってください。

❶ フロント部とリア部に立ち、高さ調整操作に支障となる障害物がないか、ストレッチャーの周り（特に担架部の真下）を確認してください。

❷ 左右のフロントグリップと左右のグリップをそれぞれで、掌を上にしてグリップを受けるように両手でしっかり握ります。

❸ グリップを握ったまま、右手の人差し指または人差し指と中指でレバープレートを手前に引きロックを解除します。担架部に人が乗っている時はロック部に荷重がかかっている為、メインフレームを少し持ち上げながらレバープレート操作を行います。





❹ レバープレートを手前に引いたまま、2人でメインフレームを上げ（下げ）ます。

❺ 目的の高さでレバーを放し、少しメインフレームを上下すると、「カチン」と金属音が鳴り一番近い位置でロックします。（夜間など暗いところではこの音を確認してください。）

❻ レバープレートを引かないで、少しメインフレームを引き上げ、確実にロックされたことを確認し、グリップから手を放してください。

⚠ 警告	●この動作を怠ると確実にロックせず、メインフレームが脱落する可能性がありますので必ず実行してください。 ●レバープレートを握る（ロックを解除する）と、傷病者とストレッチャーの荷重がかかりますので、落とさないように注意してください。 傷病者が乗っている場合の操作・調節は、無理のない安全な方法で行ってください。

していただく

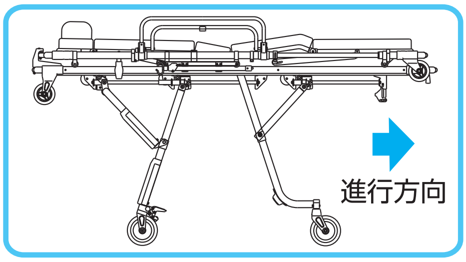
⚠ 注意	●慣れるまでは、下記の点に注意して十分に練習してください。 ・人を乗せない状態で操作を行う。　・操作側（足部側）と頭部側を別々に操作する。 ・高さ調節を少しずつ行う。 ●車への搬入は必ず最高位で行ってください。 ●必ず水平を保つように高さ調整を行ってください。

していただく

搬　送

●通常は、ストレッチャーの前後それぞれ1人ずつの2人で搬送します。メインフレームの〈操作側（足部側）〉が進行方向になるようにしてください。
段差等を越える場合には、必ず持ち上げて越えるようにしてください。

〈頭部側〉



〈操作側（足部側）〉

〈GT-05／GT-07の場合〉

●最高位で搬送してください。最高位以外では、キャスタ旋回性能が落ち思いどおりの操作ができません。

⚠ 注意	●GT-05／GT-07の場合は、最高位で搬送してください。 予想外の動きをする場合があります。

していただく

〈GT-06／GT-09の場合〉

●最低位以外のポジションで搬送が可能です。（移乗ポジションでは、自動的にブレーキがかかります。）ただし、必ず水平を保つようにしてください。

⚠ 注意	●GT-06／GT-09の場合は、水平を保ち搬送してください。 予想外の動きをする場合があります。

していただく

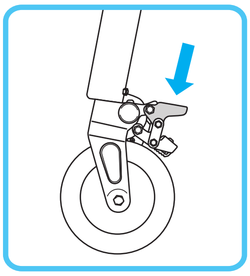
⚠ 注意	●傷病者を乗せた時は必ずシートベルトを締めサイドレールを立てて、 傷病者が転落しないように十分注意して搬送してください。

していただく

ブレーキ

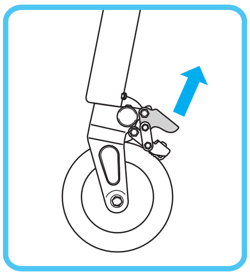
●メインフレームにはブレーキが装備されています。ストレッチャーを停止させておきたい場合に使用します。必ず平坦で乾いた路面で使用し、坂道・凹凸や濡れた路面ではブレーキが効かない恐れがあります。

〈ロックする場合〉



ブレーキを上から踏み込んでください。

〈解除する場合〉



ブレーキレバーを下から押し上げてください。（※ブレーキ（ブロック）を踏んでもロックが解除されます。）

⚠ 警告	●次のような場所では、ストッレッチャーから離れないでください。 ストレッチャーが勝手に動き出す可能性があります。 ・坂道　・凹凸や濡れた路面　・風の強い場所 ●傷病者を乗せた状態では、ブレーキをロックしても、ストレッチャーから 離れないでください。

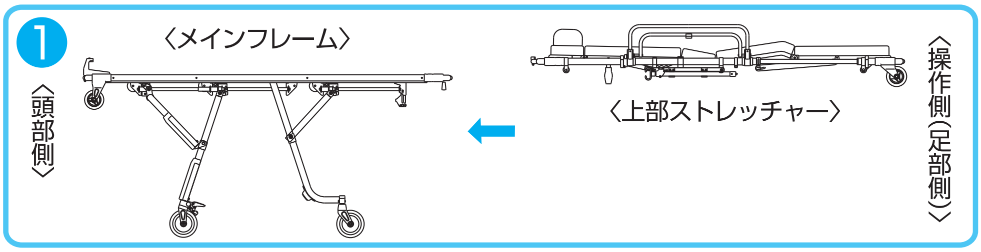
してはいけない

上部ストレッチャーの搭載、取り外し

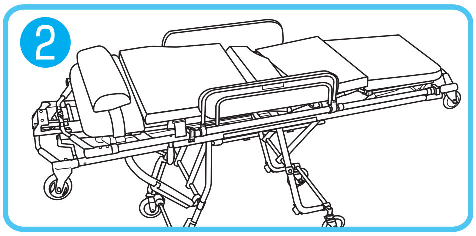
●メインフレームが入らない狭い場所や、走行できないような荒れた路面などでは上部ストレッチャーを取り外し、単体で使用することができます。（ストレッチャー単体での使用→P.19参照）

搭載方法

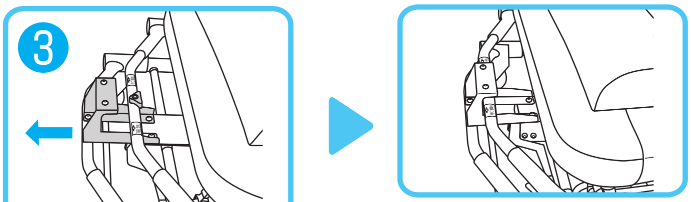
❶メインフレームと上部ストレッチャーそれぞれの向きを確認してください。



❷上部ストレッチャーをメインフレームに載せます。

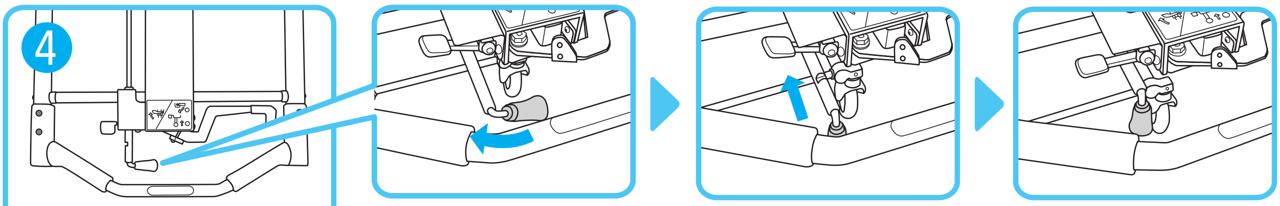


❸メインフレームのストッパーブラケットに当たるまで上部ストレッチャーを押し込みます。



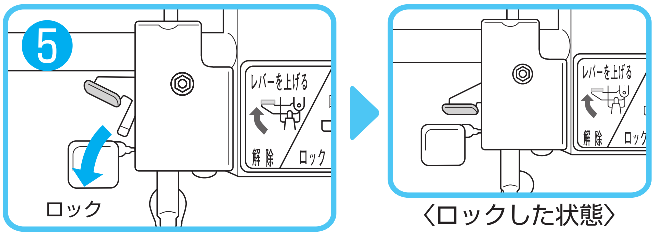
〈押し込んだ状態〉

❹操作側（足部側）にあるロックレバーを右フレーム側に回してから押し込むとロックされます。



〈右フレーム側に回す〉 〈押し込む〉 〈ロックした状態〉

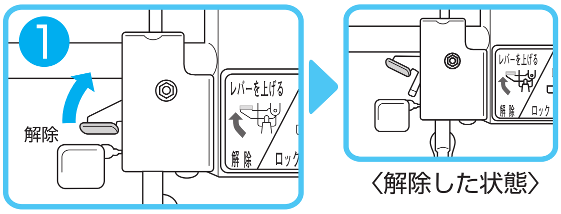
❺過度の衝撃が加わるとロックレバーが解除される場合がありますので、サブストッパーで固定します。



〈ロックした状態〉

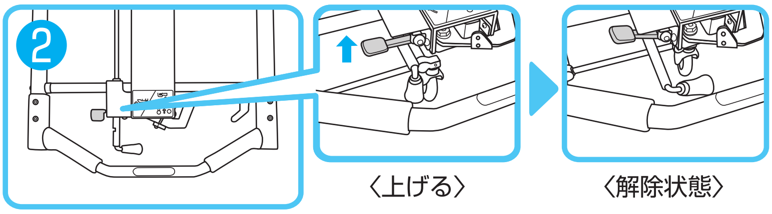
取り外し方法

❶サブストッパーを解除します。



〈解除した状態〉

❷操作側（足部側）にあるストッパーを上にあげるとロックが解除されます。



〈上げる〉 〈解除状態〉

⚠ 警告	●上部ストレッチャーとメインフレームのロックを確認し、がたつきがないか、傾いていないかを確認してください。

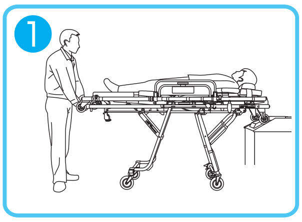
していただく

車への搬入・車からの搬出

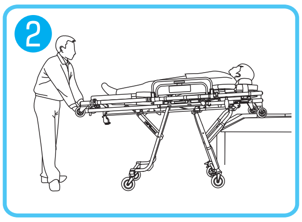
搬入方法

●車への搬入時には、メインフレームは最高位で行います。（最高位以外では搬入できません）
ストレッチャーの向きを確認し、必ず頭部側から搬入してください。
（操作側（足部側）からの搬入はできません）
この操作は2人以上で行ってください。

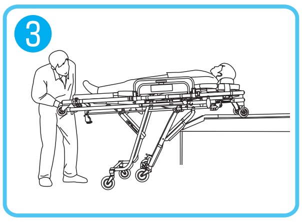
❶ロールインキャスタが防振台（車の床面）に乗るまでストレッチャーを押し進めます。



❷ロールインキャスタが、防振台に乗るまでストレッチャーを押し進めます。



❸ロールインキャスタが防振台に確実に乗っていることを確認し、メインフレームを両手でしっかりと支えたまま操作側（足部側）のレバープレートを握ります。

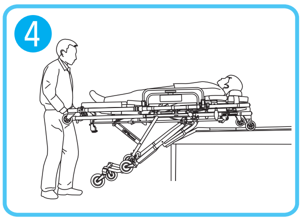


⚠ 警告

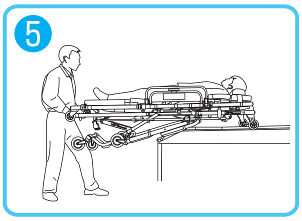
●フロントシャーシ（フロントバンパー）が防振台に当たるまで押し進めないでください。（故障の原因となり、折りたためなくなります。）

してはいけない

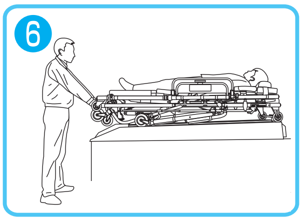
❹レバープレートを握ったままメインフレームを車内に押し込んでください。



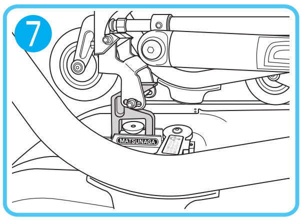
❺さらに押し込むとフロントシャーシに続き、リアシャーシも折り畳まれます。



❻一番奥まで押し込みます。



❼車内に装備されているファスナー（固定金具）でストレッチャーを固定してください。

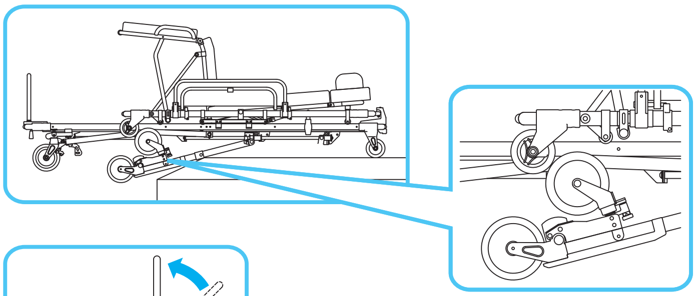


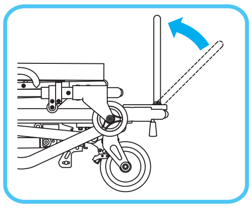
⚠ 警告	●レバープレートを握ると、フロントシャーシとリアシャーシのロックが外れ、傷病者とストレッチャー全体の荷重がかかりますので、落とさないように注意してください。 ●この操作は 2 人以上で行ってください。 ●搬入時は防振台（車の床面）と平行にストレッチャーを押し込んで下さい。

していただく

⚠ 注意	●上部ストレッチャーが座位型の状態で搬入しないでください。 ●ハンドルパイプが傾いた状態で搬入しないでください。 救急車のドアの内張り、カーテン等の破損の原因となります。

してはいけない

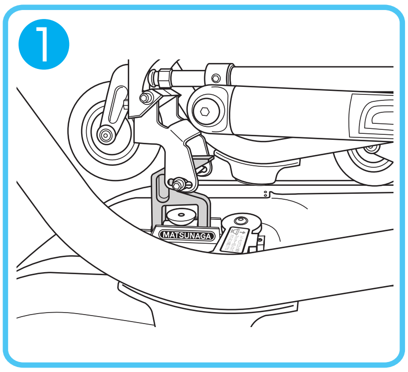




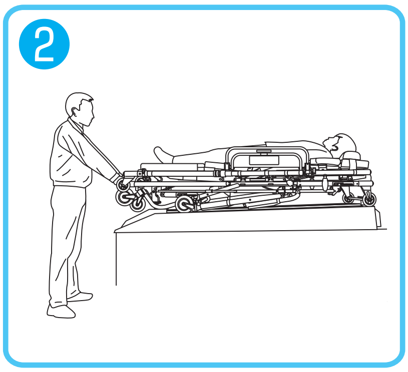
搬出方法

●この操作は2人以上で行ってください。

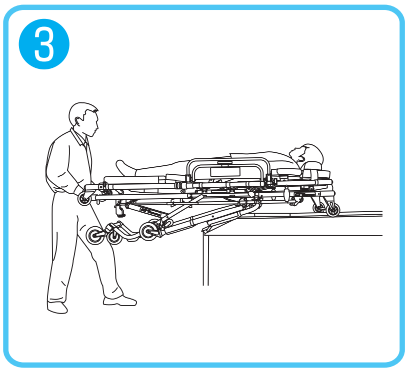
❶ストレッチャーを固定しているファスナー（固定金具）のロックを解除します。



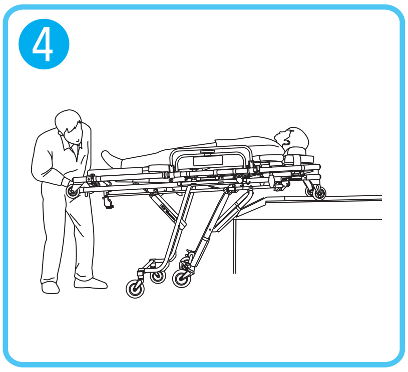
❷メインフレームのメインリアグリップを両手でしっかりと持ち、操作側（足部側）のレバープレートを握ります。



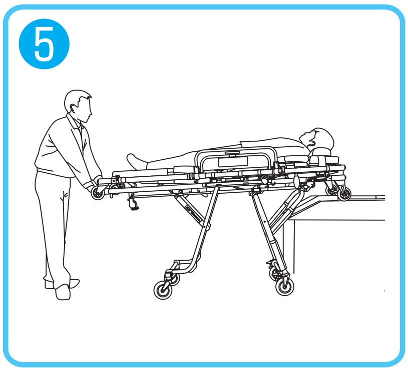
❸レバープレートを握ったまま、メインフレームを引き出すと、リアシャーシが伸び始めます。



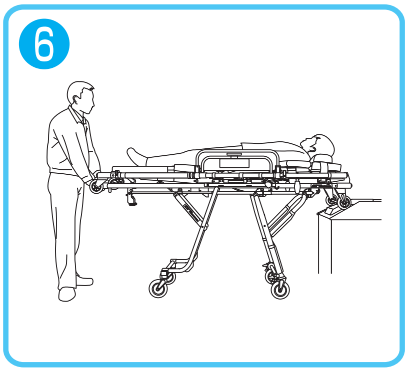
❹リアシャーシが伸びきった後、レバープレートを離し、引き出すと、フロントシャーシが伸び始めます。



❺ロールインキャスタが防振台（車の床面）に乗っている状態で、フロントシャーシが伸び切ったことを確認してください。



❻ロールインキャスタが防振台（車の床面）から離れたら、リアキャスタを地面につけます。



※防振台（車の床面）とメインフレームのロールインキャスタの間に極端な隙間がある場合には、脚が伸びにくくなります。このような場合、メインフレームの操作側を持ち上げて、フロントシャーシとリアシャーシを確実に伸ばしてください。

●防振台（車の床面）とロールインキャスタの高さが極端に違う場合は使用を中止し、お買い求めいただいた販売店または（株）松永製作所までご相談ください。

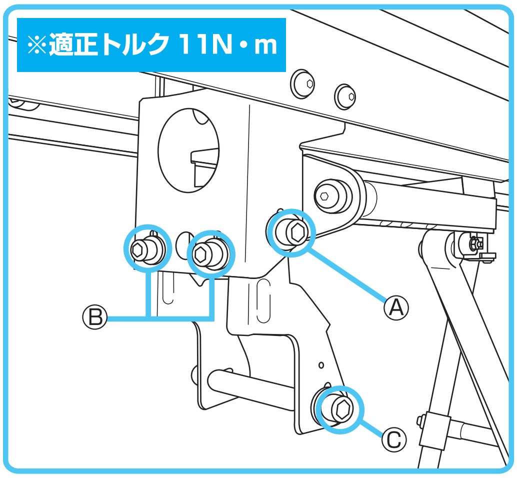
⚠ 警告	●フロントシャーシが伸びきらないうちにロールインキャスタが防振台（車の床面）から離れると、ストレッチャー頭部側が落ち危険です。ロールインキャスタが防振台（車の床面）に乗っている状態でフロントシャーシが完全に伸びたかどうか必ず確認してください。 ●フロントシャーシとリアシャーシが完全に伸びきるまで、レバープレートは握ったままの状態にしてください。 ●搬出は2人以上で行ってください。 ●搬出時は防振台（車の床面）と平行にストレッチャーを出して下さい。

していただく

ファスナーブラケットの調整

●ストレッチャーをはじめてお使いになる場合には、車内に装備されているファスナー(固定金具)とメインフレームが固定できるか、必ず確認してください。
固定できない場合は、ファスナーブラケットの調整を行ってください。不明な点がありましたら、お買い求めの販売店、もしくは(株)松永製作所までお問い合わせください。

●車内に装備されているファスナー(固定金具)とメインフレームの固定ができない場合に、ファスナーブラケットの調整を行います。
ストレッチャーをはじめてお使いになる場合、車両(防振台)を変更された場合には、必ず固定できるかどうか確認してください。



上下調整

●ⒶとⒷのボルトを緩め、調整してください。
調整後は適正トルク（11N・m）で締めてください。

前後調整

●Ⓒのボルトを緩め、調整してください。
調整後は適正トルク（11N・m）で締めてください。

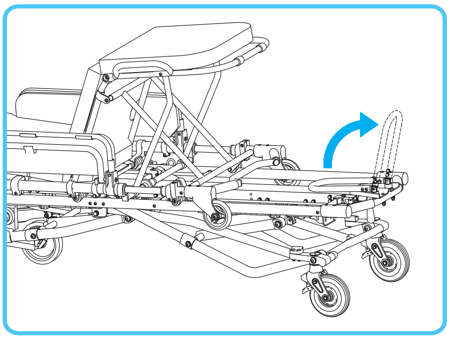
Ⓐ、Ⓑ、Ⓒは各2本ずつあります。

搬送ハンドルの使用方法

●搬送ハンドルは、CPRポジション時に使用します。
●フットレスト下部に収納されています。

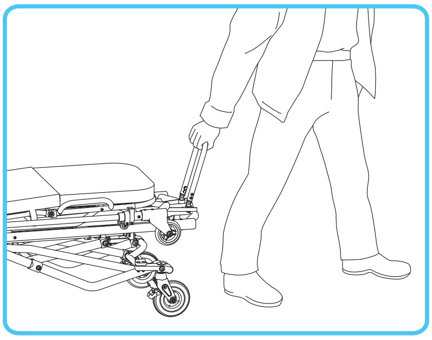
取り出し方法

❶フットレストを上げ、搬送ハンドルを起こし使用してください。
（P.18のフットレストの調整参照）

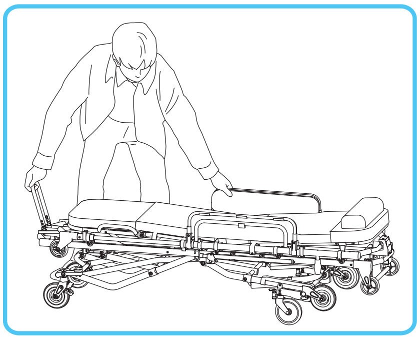


搬送方法

搬送ハンドルを持ちストレッチャー を曳航してください。



搬送ハンドルとサイドレール部を持ち 移動（搬送）してください。

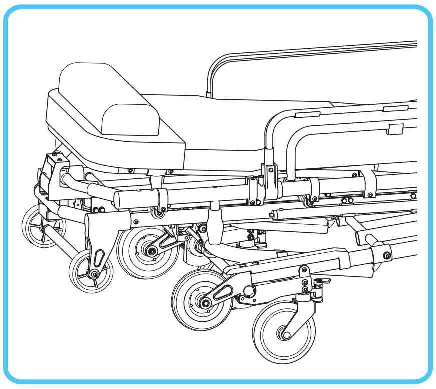


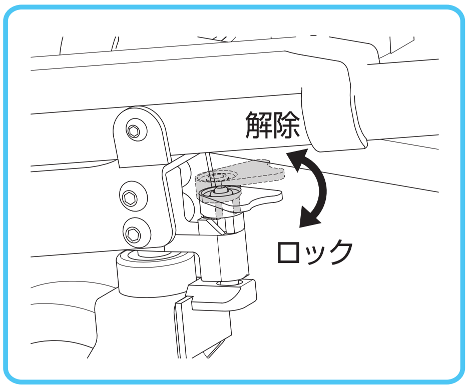
⚠ 注意	●搬送ハンドル収納時、座パイプや可動部で手や指などを挟まないようにしてください。 ●シートベルトを必ず締め、傷病者の体を固定してください。 ●坂道、凹凸や濡れた路面、風の強い場所での使用時は注意してください。

していただく

補助キャスタの使用方法（GT-09）

CPR ポジション時に、補助キャスタの旋回ロックのロックを解除すると４輪が自在走行可能になります。必要に応じて、旋回ロックのロックを解除してください。
（使用後は必ず旋回ロックをロックしてください。）





⚠ 警告	●使用後は必ず、補助キャスタの旋回ロックがロックされているか確認してください。 破損・転倒・転落事故等の原因となります。

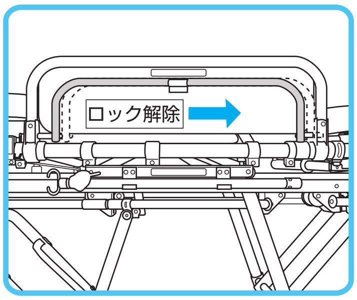
していただく

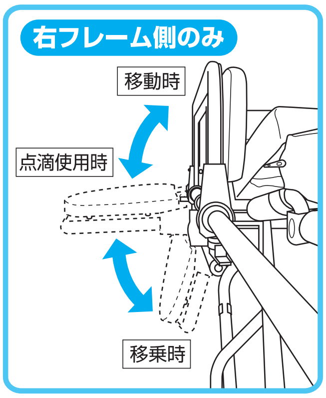
サイドレールの使用方法

対応機種
(GT-05・06・09)

●サイドレール外側の赤いU字パイプを足側へスライドさせると、ロックが外れ、サイドレールを倒すことができます。

(元に戻すと、自動的にロックされますが、確実にロックされたかどうか確認してください。)





・右フレーム側のサイドレールは使用状況に合わせて上、横、下と3段階に変更することができます。

⚠ 注意	●傷病者をストレッチャーに乗せたときは、必ずサイドレールを立て、ロックされていることを確認してください。

していただく

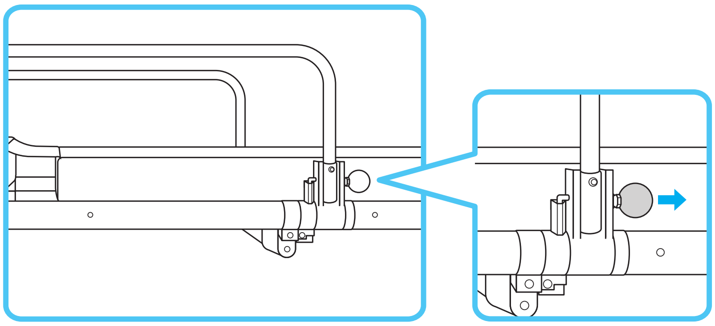
⚠ 注意	●サイドレールを持ってストレッチャーを持ち上げないでください。破損・転倒・転落事故等の原因になります。 ●U字パイプをスライドさせたまま、サイドレールを倒さないでください。上部ストレッチャー本体の内側に入り込み、故障の原因となります。

してはいけない

対応機種
(GT-07)

●サイドレール脚側のロックノブを引っ張ると、ロックが外れ、サイドレールを倒すことができます。

(元に戻すと、自動的にロックされますが、確実にロックされたかどうか確認してください。)



⚠ 注意	●必ずロックされたことを確認してください。傷病者をストレッチャーに乗せたときは、必ずサイドレールを立て、ロックされていることを確認してください。

していただく

⚠ 注意	●サイドレールを持ってストレッチャーを持ち上げないでください。破損・転倒・転落事故等の原因になります。

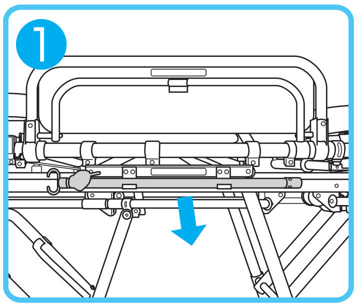
してはいけない

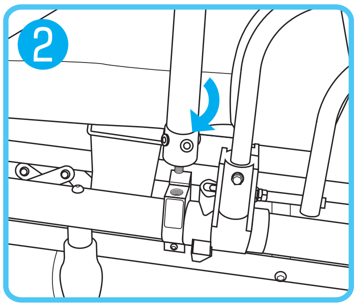
ガートル棒の使用方法　標準　GT-05・06・09　オプション　GT-07

ガートル棒の取り付け、取り外し

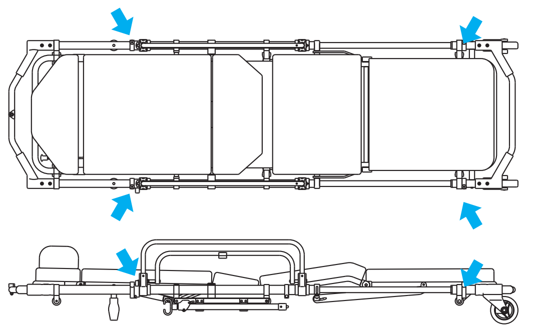
❶ ガートル棒を収納ホルダから取り外します。

❷ 取り付け位置にガートル棒をねじこみ取り付けます。





取り付け位置(仕様により、個数変動します。)



●取り外しは逆の手順で行います。
・ガートル棒の収納ホルダは左右2ヶ所どちらでも可能です。
　移動中に落下させないように、きちんと収納されているか確認してください。

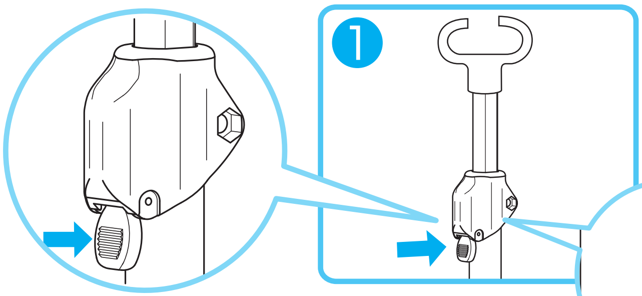
⚠ 注意	●ガートル棒取り付け時には、必ず最後までねじこみ、ぐらつきがないか確認してください。 ガートル棒が外れる可能性があります。 ●ガートル棒収納時には、必ずしっかりとホルダにはまっているか確認してください。 移動中に落下する可能性があります。

していただく

ガートル棒の高さ調整

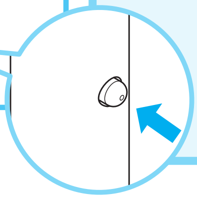
プッシュロック

❶ 伸縮パイプを片手で持ちながら、ロック解除レバーを押さえます。

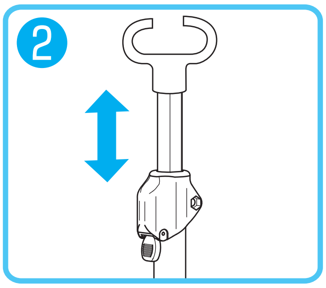


ピンロック

ガートル棒を最高使用位置よりも伸ばした時に抜けてしまわないように安全装置ボタンが付いています。
ロックした場合は、ピンを指で押さえながら、ガートル棒を縮めてください。



❷ パイプをスライドさせ、適当な位置で解除レバーをはなします。



❸ パイプを上下にスライドさせて、ロックを確認してください。

⚠ 注意	●フック部で顔や目などケガをしないように注意して使用してください。 介助者の方や、周囲の方に注意して使用してください。 ●高さ調節を行った際は、プッシュロックが完全にロックされているか確認してください。 ロックされていない場合、ガートル棒が急に縮みフック部が頭部にあたるなどケガをする恐れがあります。

していただく

⚠ 注意	●ガートル架以外の目的で使用しないでください。 破損の原因となります。 ●高さ調整の際、伸縮パイプを勢いよく引っぱらないでください。 伸縮パイプが抜け破損の原因となります。

してはいけない

背もたれの調整

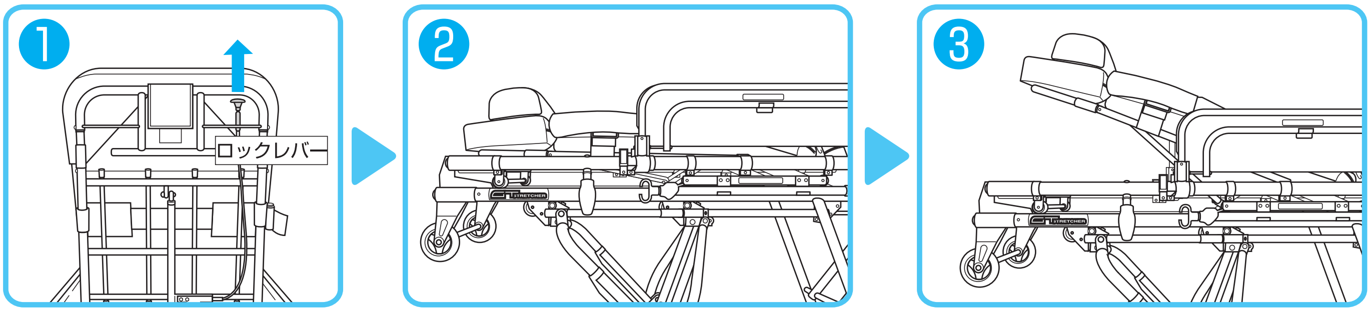
●傷病者の状態に合わせて、背もたれの角度を6段階に調整することができます。
また、GT-05・06・09は気道確保するために、頭部を倒すことも可能です。

背もたれの角度調整

❶ 背もたれを少し持ち上げながら、ロックレバーを引きます。

❷ ロックレバーを引いたまま、背もたれを適した角度にし、ロックレバーを離します。（背もたれは持ったまま）

❸ 背もたれを少し倒すと一番近い位置でロックします。適した角度に合わせてください。（確実にロックされたことを確認してから手を放してください。）



〈背もたれ裏側〉

※図はGT−05

注意 ●傷病者を乗せたまま、背もたれの角度調節を行うときには、背もたれをしっかりと持ちゆっくりと操作してください。また、ロックを確認してから手を離してください。
背もたれが急に倒れ、傷病者に衝撃を与えます。また転落事故等の原因になります。

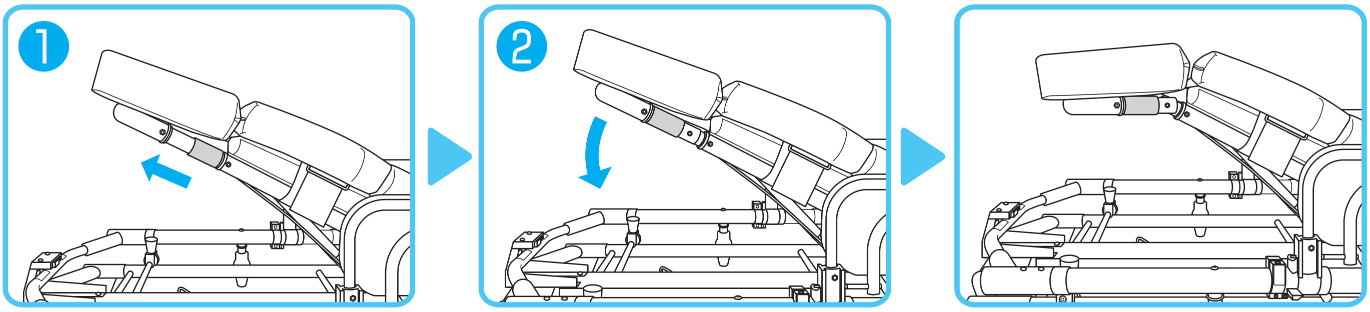
していただく

頭部の角度調整（GT−05・06・09）

❶ 頭部パネルを持ち、スライドロックを上げます。（左右共）

❷ 頭部パネルをしっかりと持ち、ゆっくりと倒します。

〈倒した状態〉



❸戻すときは、頭部パネルを起こし、スライドロックをはめてください。（左右共）

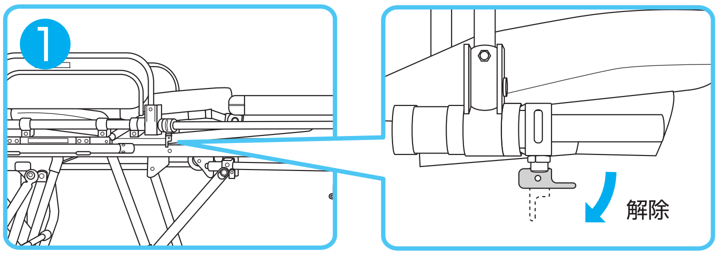
注意 ●傷病者を乗せたまま行うときは、急に倒れないように、しっかりと頭部パネルを支えて操作してください。

していただく

フットレストの調整

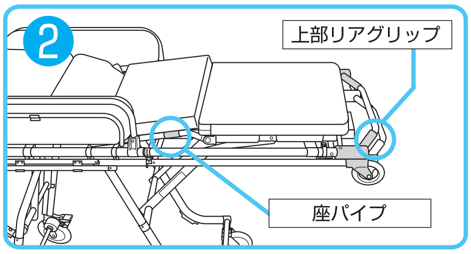
●傷病者の状態に合わせて、フットレストの角度を4段階に調整することができます。

❶ 本体右側下のロックレバーを解除します。

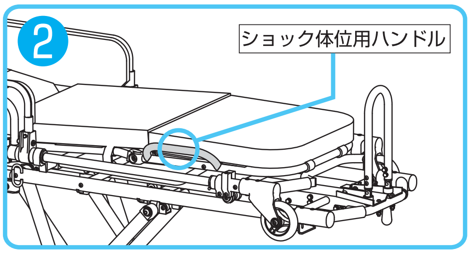


❷ GT-05・06 の場合、片手で座パイプを持ち、もう一方の手で上部ストレッチャーの上部リアグリップを持ちます。

❷ GT-09の場合、両手でショック体位用ハンドル（赤色テープ）を持ちます。



〈GT-05・06の場合〉



〈GT-09の場合〉

⚠ 注意

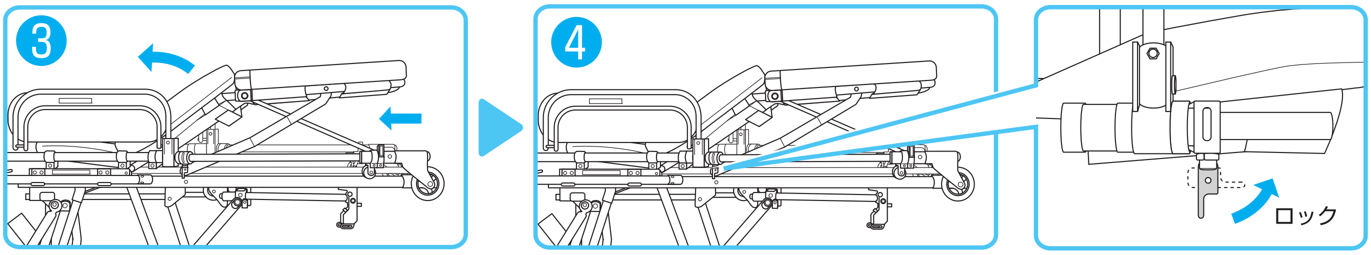
●ショック体位用ハンドル（赤色テープ）以外で操作を行うと操作が出来ない場合があります。

していただく

❸ 頭側へスライドさせます。

❹ 適当な高さになったら、ロックレバーをロックします。

❺ フットレストを少し上下させるとロックします。



⚠ 注意	●ロックレバーが、確実にロックされたか確認してください。

していただく

●フットレストを元に戻す場合は、ロックレバーを解除し、フットレストを押し下げてください。
その後、必ずロックレバーをロックしてください。

⚠ 注意	●フットレストの調整をする時に、フレーム内やスライド部で手や指をはさまないように十分注意してください。 特に傷病者を乗せたまま行うときは、急にフットレストが下がらないようにしっかりと支え、操作してください。また、ロックを確認してから手を離してください。

していただく

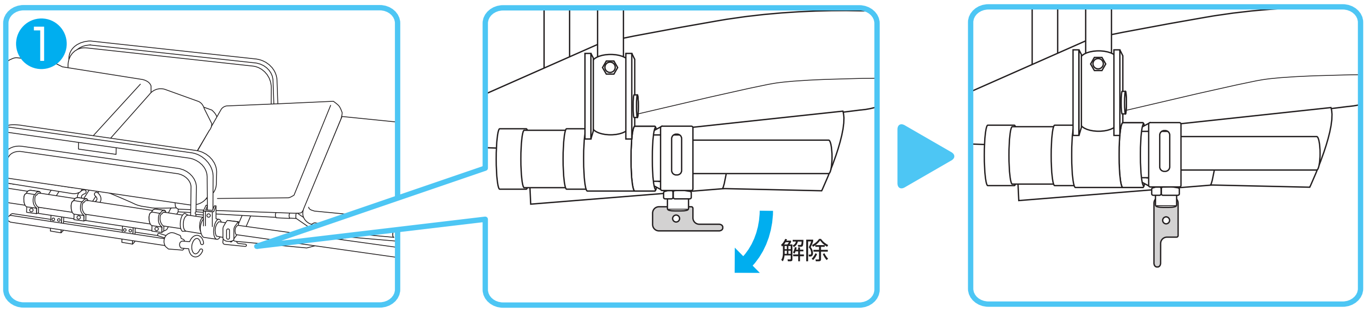
上部ストレッチャー部単体での使用（GT-05・06・09）

●メインフレームが入らない狭い場所や、走行できないような荒れた路面などでは、上部ストレッチャー部単体で使用することができます。(→P.10 上部ストレッチャーの搭載、取り外し参照)
また、階段などの狭い場所で平型で使用することが困難な場合には、座位型にすることも可能です。

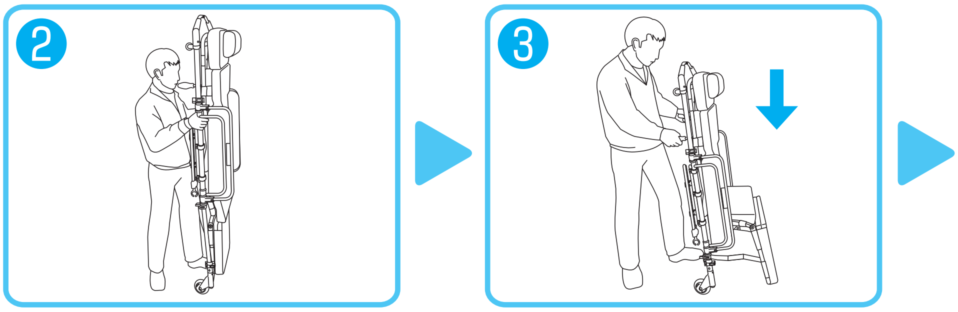
平型→座位型にする方法

❶本体右側下のロックレバーを解除します。

〈ロックした状態〉　〈解除した状態〉



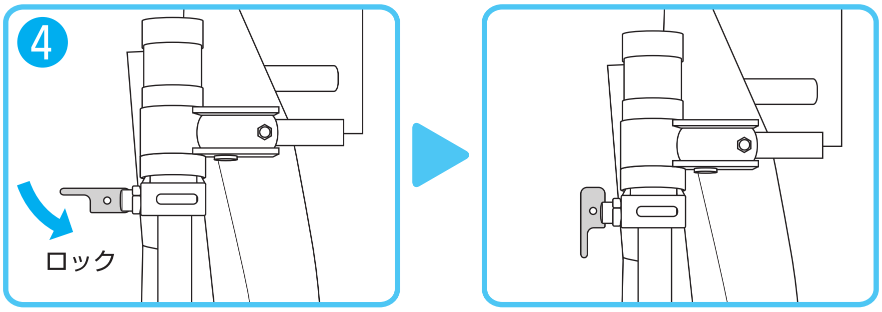
❷図のように両手で左右のフレーム（または、スタンドグリップ）を持ちます。



❸垂直に立てると、自重で下がり座位型になりますので、しっかりとフレーム(または、スタンドグリップ)を支えてください。
（急に下がりますので、注意してください。）

❹一番下まで下がったら、ロックをしてください。

〈ロックした状態〉



上記の方法が難しい場合には、寝かせた状態で座フレームを持ち上げることでも可能です。
(→P.20傷病者を乗せたまま平型→座位型 にする方法参照)

座位型→平型にする方法

●平型→座位型にする方法の逆手順で行ってください。

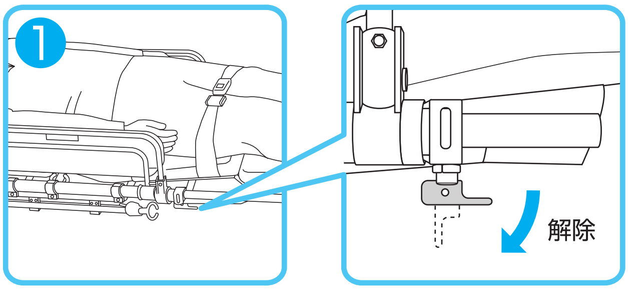
⚠ 注意	●フレームの各部で手や指などをはさまないように注意してください。 ストレッチャーの自重で急に変形しますので、フレームをしっかりと支え慎重に操作してください。

していただく

傷病者を乗せたまま 平型→座位型 にする方法

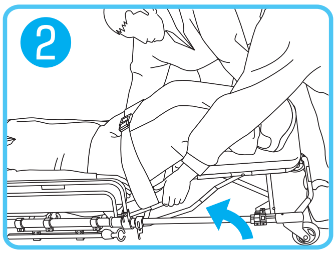
胸部・足部のシートベルトを必ず締めて傷病者の体を固定してください。

❶ ロックレバーのロックを解除します。

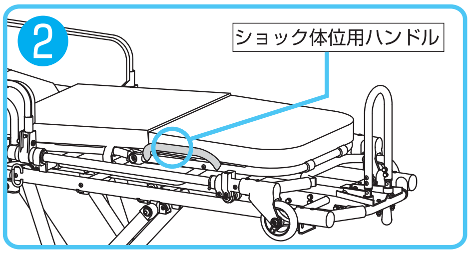


❷ GT-05・06の場合、脚パイプと座パイプをしっかりと持ち、座パイプを上へ持ち上げるように起こしてください。

❷ GT-09の場合、両手でショック体位用ハンドル（赤色テープ）を持ちます。



〈GT-05・06の場合〉



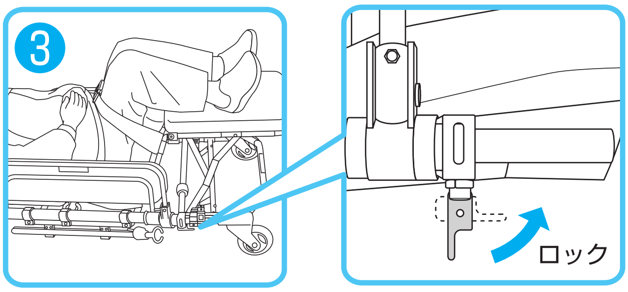
〈GT-09の場合〉

⚠ 注意

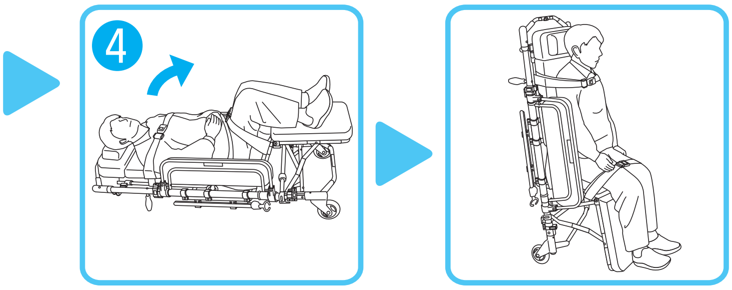
●ショック体位用ハンドル（赤テープ）以外で操作を行うとフットレストが逆転し操作が出来ない場合があります。

していただく

❸ 座パイプが起き上がったら、ロックレバーをロックしてください。



❹ 傷病者が転落しないように注意しながら、担架をゆっくりと起こしてください。



傷病者を乗せたまま座位型→平型にする方法

●傷病者を乗せたまま平型→座位型にする方法の、逆手順で行ってください。

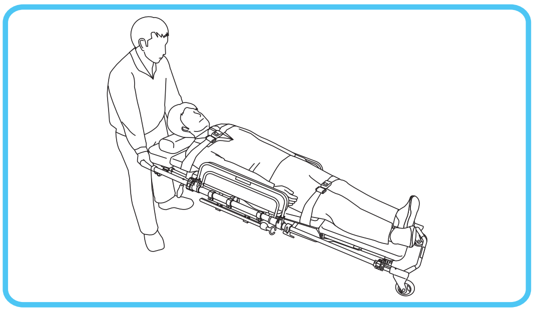
⚠ 注意	●傷病者が苦痛でなく、転落しないようにしてください。 ●座パイプやジョイント部で手や指などをはさまないようにしてください。 ●平型、座位型にした場合は、必ずロックレバーがロックされている事を確認してください。 ●シートベルトを必ず締めて傷病者の体を固定してください。

していただく

キャスタでの移動

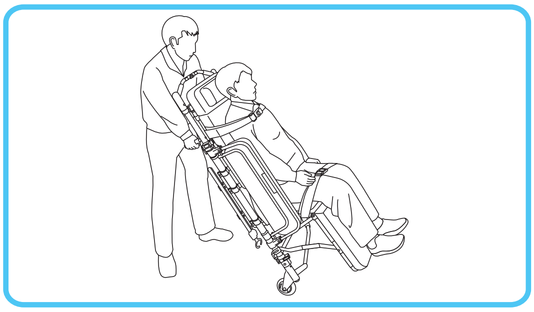
キャスタが付いていますので、1名で移動することも可能です。

平型の場合



左右のフロントグリップを持ち上げて安全な角度で移動してください。

座位型の場合(GT-05・06・09)



スタンドグリップを握り、後方に安全な角度に傾斜させて移動してください。

注意

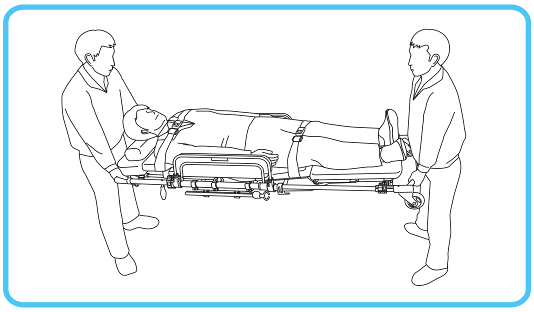
●坂道や凹凸、濡れた路面などではキャスタ移動をせず、持ち上げて移動するようにしてください。

していただく

持ち上げての移動

路面状況が悪い場合や傷病者が重い場合など、状況に合わせて介助者を増やすようにしてください。

平型の場合



フロントグリップ両端とリアグリップ両端を持ち上げて移動してください。(2名以上)

注意

●路面や周囲の状況を判断し、注意して移動してください。
●平型の場合は水平を保ち傷病者の転落を防止してください。
●座位型の場合は傷病者が苦痛でなく転落しない角度にしてください。

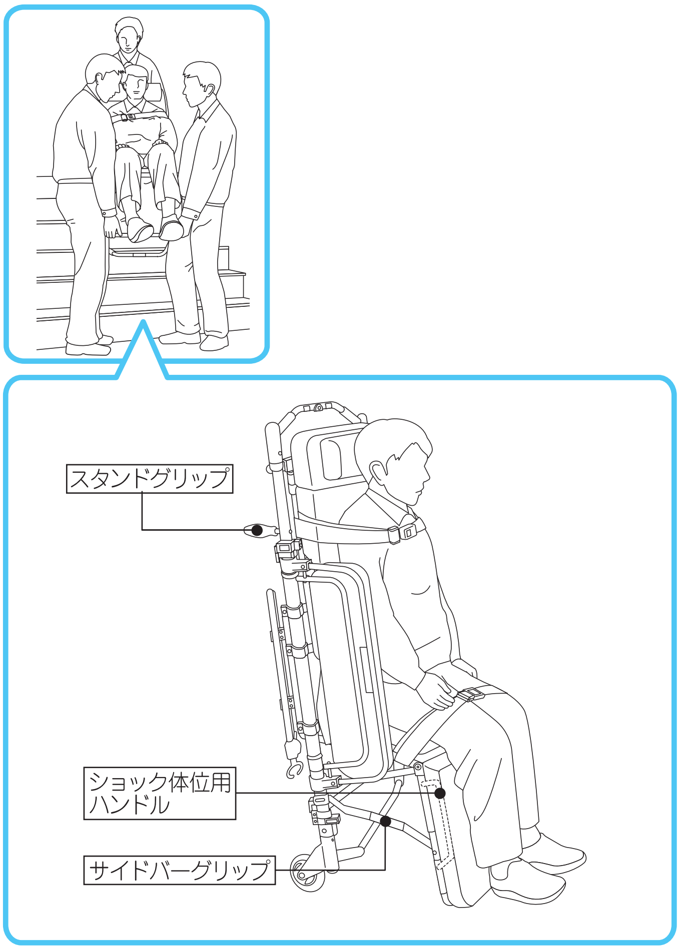
していただく

注意

●サイドレールを持って持ち上げないでください。

してはいけない

座位型の場合(GT-05・06・09)



スタンドグリップとサイドバーグリップまたはショック体位用ハンドルを持ち上げて移動してください。(3名以上)

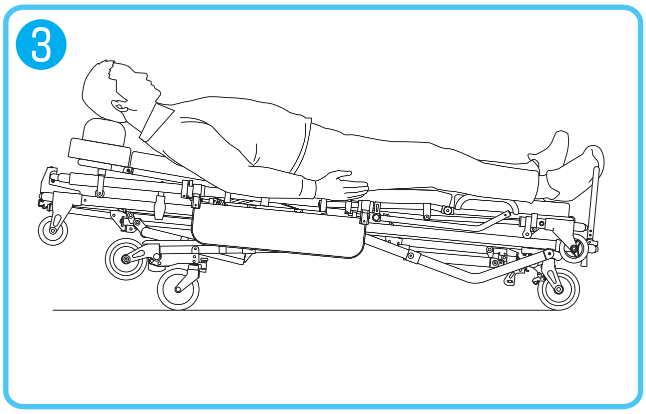
傷病者の収容方法

傷病者の乗せ降ろしは、担架を固定させて行ってください。担架が動き転落する危険性があります。
（出来るかぎり平坦な場所で行ってください。）

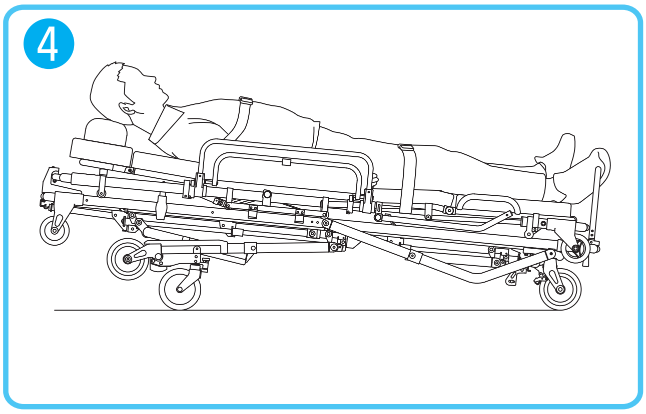
❶ 補助キャスタがロックされているか確認してください。(左右共)

❷ ストレッチャーの高さを移乗ポジションにし、ブレーキをロックしてください。(左右共)

❸ サイドレールを倒して傷病者をストレッチャー に収容してください。(P.15 サイドレールの使用方法参照)

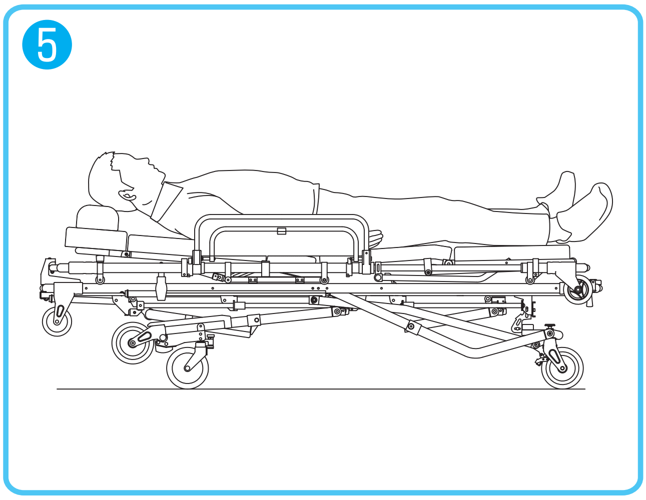


❹ ストレッチャーのサイドレールを立て、胸部・足部のシートベルトを締め、傷病者を確実に固定してください。(P.14 補助キャスタの使用方法参照)

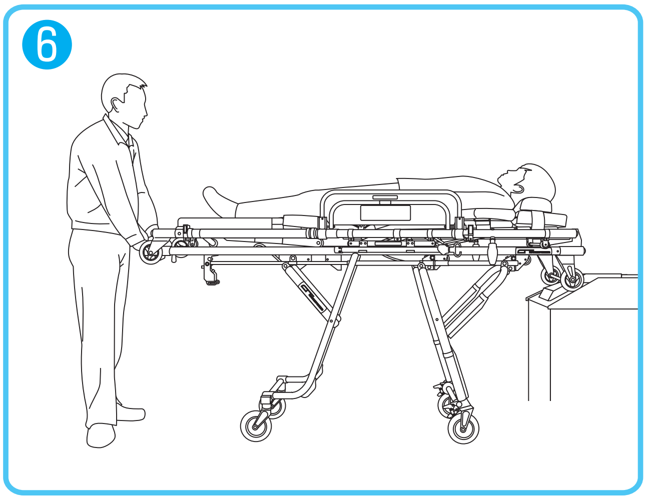


※必要に応じて補助キャスタの旋回防止ロックを解除してください。
※救急車に搬入する前に、補助キャスタの旋回ロックがロックされているか確認してください。

❺ 4輪フリー(曳航可能)な高さにストレッチャーを高さ調整し、救急車まで搬送してください。



❻ ブレーキを外し、ストレッチャーの高さを最高位にし、救急車に搬入してください。



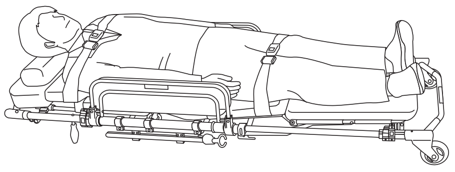
⚠ 注意	●必ず、担架が動かないことを確認してから、傷病者の乗せ降ろしを行ってください。 担架が動き転落する恐れがあります。 ●傷病者を乗せた後は、必ずサイドレールを立ててください。

していただく

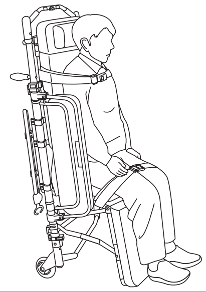
シートベルトの使用

ストレッチャーを使用する場合は、必ず胸部・足部のシートベルトを必ず締めて傷病者の体を固定してください。

平型の場合



座位型の場合（GT-05・06・09）



⚠ 注意	●必ずシートベルトのロックを確認してください。

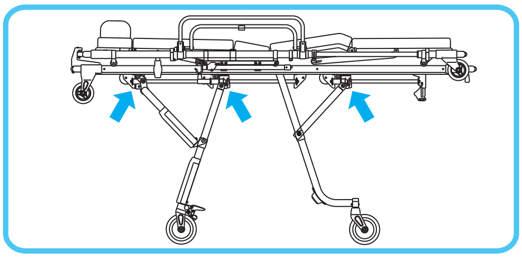
していただく

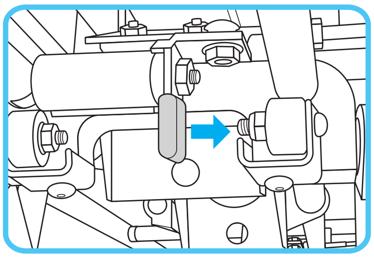
もしこんなトラブルが発生したときは

脚が伸びない場合

●万一、レバープレートを握っているにもかかわらず、フロントシャーシやリアシャーシが伸び切らない場合は、メインフレーム裏側に緊急時のロック解除レバーを3箇所設けてあります。
ただし、この操作は必ず2人以上で行い、取扱いには十分注意してください。

〈ロック解除レバーの位置〉





メインフレームをしっかりと支えた状態で、レバーを引きます。

⚠ 注意	●レバーを引くと、フロントシャーシ、リアシャーシが急に伸びますので手や足などをはさまれないように注意してください。

していただく

メンテナンス

■最低でも、月に一度は点検を行ってください。
点検により、不具合な箇所が見つかった場合には、修理が完了するまで使用しないでください。

■作動時に擦れ合う部分には、グリースを注油してください。
特に、キャスタ部のベアリング部の注油は欠かさないでください。

■アルミフレームのクリーニングを石けん水、または中性洗剤で洗った後に、自動車用または家具用のワックスでコーティングしてください。

■マット、シートなどの表面は、アルコールなどで拭いてください。

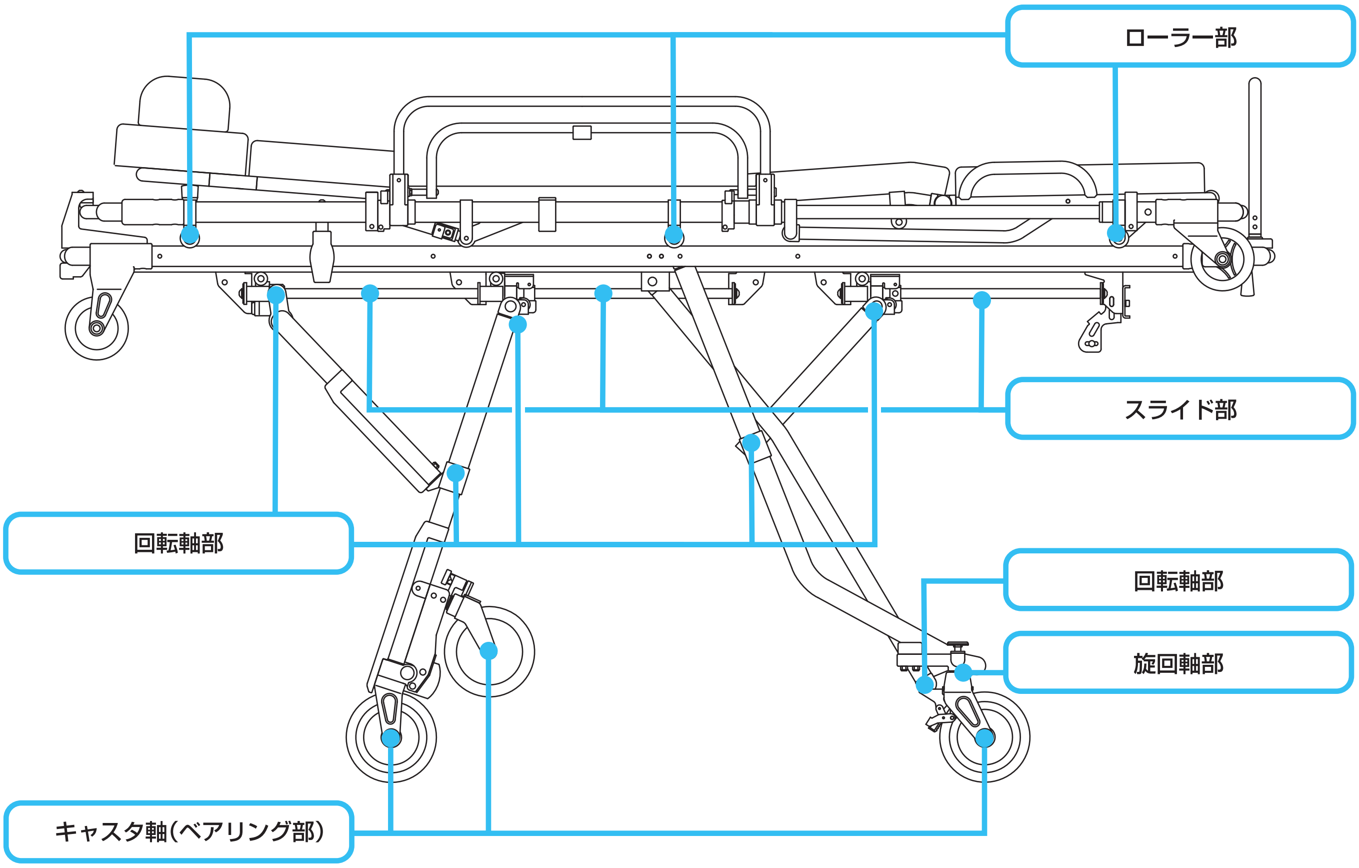
■メインフレームのフロントバンパー、リアバンパー、保護キャップについては、摩耗状況に十分注意してください。
摩耗したままで使用すると、ストレッチャーに損傷が生じるばかりでなく、防振台や自動車のバンパー部分などに傷をつける恐れがありますので、早めに交換してください。
また、キャスタの摩耗やブレーキの効きを確認していただき、早めに交換するようにしてください。

⚠ 注意	●強酸性、強アルカリ性の洗剤は本体を変色させる恐れがありますので、使用しないでください。

してはいけない

注油箇所

●スライド部・回転軸部にはグリースをつけてください。
グリースは防錆潤滑グリース（スプレータイプ）を使用してください。



※イラストはGT-09です。

保　証

●保証期間は、お買い上げ後1ヶ年です。（本体・付属品）
ただし、次の場合は保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災・天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法・注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更および改造による故障の場合
4. キャスタの摩耗・シートの破れなど消耗品や各部の劣化による故障・損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

●この保証書は、日本国内のみ有効です。

愛の輪
愛のいす
MATSUNAGA

株式会社 松 永 製 作 所
〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL0584-35-1180（代） FAX0584-35-1270
URL http://www.matsunaga-w.co.jp